

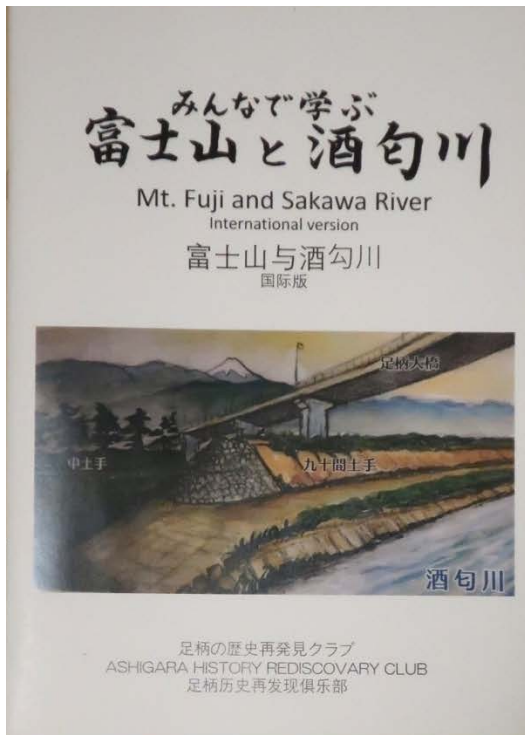


神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

友の会通信

115
2022.3

Vol.25 No.4 通巻115号 2022年3月15日発行(年4回発行)



『みんなで学ぶ富士山と酒匂川』

この本は、私が所属する足柄の歴史再発見クラブが制作した著書である。みんなとは、地元の大人から子供まで、そして外国の方々にも読んでいただくことを目的とした。であるので平易な日本語とこれを翻訳した英語、中国語を並列している。構成は見開き2ページを1テーマもしくは2テーマとし、約40テーマからなっている。内容は、足柄の自然史、人工の川・酒匂川、江戸時代の大開発、元禄・宝永地震、富士山宝永大噴火、酒匂川氾濫、田中丘隅の功績、なぜ文命を祀ったのか、酒匂川左岸の人々の苦難、足柄平野の治水、関東大震災、震災後の足柄平野、1938年の水害、ハザードマップについて、等々を扱っていて、地元足柄の災害史と、これにどう人々が立ち向かったかのストーリーで書かれている。この書の制作に当たり、博物館友の会活動が大きく寄与している。研究会の運営はもとより、それぞれのパートごとでの自由闊達な活

動と研鑽、それをまとめる「友の会通信」の存在、「友の会通信」の印刷、発刊等、倣った事柄は多い。友の会活動を経験していなければ、おいそれとできないことであった。そこで会員の皆さま、何らかの社会支援、とくに博物館支援をとお考えの方、一緒に活動いたしませんか。できる範囲で結構です。さあ、ともに学ぶ機会を創出しましょう。お待ちしております。なお、この本にご興味なある方は関口までご連絡ください。

メールアドレス：yasihiro58157@watch.ocn.ne.jp

(友の会副会長 関口)

目次

事務局より	2
情報クリップ	2
活動報告	3
学芸員の雑記帳	6
行事案内	7

事務局より

2021年度友の会第5回役員会の開催

2021年12月18日（土曜日）午後より、第5回友の会役員会を開催しました。

今回はコロナも大分落ち着いてきているので、リアルでの開催です。

事務局から来年度に向けた会員証更新作業などや来年度の役員会及び講座担当者会議の日程などの提案がありました。また総会については、4月24日（日）に博物館講義室で行うことが決定しました。その他、総会イベントや懇親会について、方向性等の確認がされました。企画部からは、来年度の行事計画の確認依頼及び10月30日に行われた講座担当者会議の報告がありました。博物館の空調システム工事のため、多少寒い中での役員会でしたが、滞りなく開催出来ました。

2021年度友の会第6回役員会の開催

2022年2月5日（土曜日）午後より、第6回友の会役員会を開催しました。

コロナ禍真っ只中の状況なので、今回はzoomによるリモート開催です。

事務局では4月24日（日）開催予定の総会に向けた作業等について、イベントについては県温泉地学研究所の萬年主任研究員による講演がきまったこと、懇親会はこの状況を鑑み中止とすること、などが話し合われました。（現時点では、総会及びイベントは開催する予定ですが、今後のコロナの状況等によっては中止とさせていただくこともあります）

また、今年もミニ展示コーナー企画展『友の会活動ポスター展』を開催することとし、各講座の担当者への依頼を行うこととしました。

●友の会運営のお手伝いを募集！

友の会では運営のお手伝いをしていただける方を募集しています。資料の発送や会計事務、友の会通信の企画・作成、ブログ等での情報発信作業など、ご興味のある方はお気軽に事務局までご連絡ください。

（友の会事務局）

TEL:0465-21-1515、E-mail:kpmtomo@ybb.ne.jp

情報クリップ

2021年度 友の会会員数：363名（1月31日現在）
正会員：360名／賛助会員：3名

●会員更新の手続きについて

会員更新の手続きは、お済みですか？2月に振込用紙を発送しておりますので、再度ご確認のうえ、更新の手続きをお願いいたします。

※振込用紙は、次年度の会費をご入金済みの会員様にも送付しております。ご了承ください。

●「2021年度 子ども自然科学作品展」のお知らせ



開催期間：2022年4月23日（土）～
5月8日（日）

夏休みの自由研究や日頃から行っている調査研究の成果など、自然科学に関する小・中学生の研究作品を展示します。コロナ禍にも関わらず、今回も数多くの力作が寄せられました。作品の一つひとつに当館学芸員のコメントが付けられ、児童・生徒の皆さんの今後の研究の参考にもなります。

問合せ先：神奈川県立 生命の星・地球博物館

企画普及課 TEL：0465-21-1515

FAX：0465-23-8846

ウェブサイト：<https://nh.kanagawa-museum.jp/>

公式Twitter：@seimeinohoshiPR

混雑情報Twitter：@seimeinohoshiCI

活動報告（植物観察会）

『身近な植物観察入門』

2021年11月27日(土) /博物館周辺 /11名(スタッフ含む) /担当：植物グループ

博物館前に集まった参加者はスタッフを含めて11名、前月と同じ吾性沢方面を歩きました。出発早々、駅近くにある保存木、カゴノキの話題が出て、ちょっと寄り道。大木のカゴノキ見学、鹿の子模様がきれいに見られました。

その後は予定の観察路コース、庭先のイヌカタヒバは葉先を赤く染めています。コセンダングサやハナタデなどはすでに花が終わり果実です。車道から離れて狭い道に入ってからゆっくり観察、シダ植物に興味のある方もいられ、みんなでシダ観察です。タチシノブやホシダ、少し進むとフモトシダやジュウモンジシダも観察できます。石垣には細長い胞子葉を付けたマメツタがみられます。葉の形や葉裏の胞子嚢の形など、皆さん熱心に観察。

石垣のペラペラヨメナは まだ花を見せてくれています。路傍のベニバナボロギクが元気に花をつけています。このベニバナボロギクの小花がかわいいということで、ルーペを出して小さな花をみんなで観察する。くると反転した柱頭に皆大感激！黒い果実はネズミモチ？トウネズミモチ？参加者から2種の果実の違いなどの話も出てきて、長丸の果実を付けた目の前の木はネズミモチに落ち着きました。

センニンソウは果実の先を長く伸ばし、ふわふわした白い毛をつけています。コクサギの果実は熟し、今にも飛び出しそうです、さみしそうに下がっている林縁のカラスウリやスズメウリ、青い果実をまばらにつけたヤブミョウガなど、観察路には冬を迎えるたくさんの果実がみられました。

ヤマグワとヒメコウゾの冬芽観察などして、引き返すことにしました。足元に気を付けながらも、時々立ち止まって色づいた木々を眺めながら入生田駅へ、今日は今年最後の観察会でした。来年4月からの「身近な植物観察入門」の予定などを連絡して解散となりました。

(植物グループ 佐々木あや子)



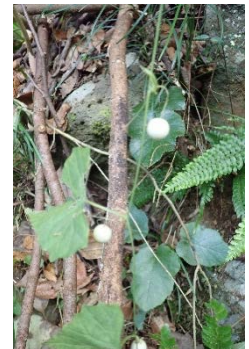
センニンソウ：旅立ち間近、白い毛が美しい



ヒメコウゾ：黄葉がひとさわ綺麗



カラスウリ



スズメウリ



熱心に観察する参加者

『冬を迎えた生田緑地』

2021年12月11日（土）／川崎市多摩区／

11名／講師：田中徳久学芸員／担当：植物グループ

快晴の空の下小田急線向ヶ丘遊園駅から歩いて、生田緑地北口へ。

向かって右側の道を登りながらノササゲとトキリマメの美しい果実、珍しいオオカモメヅルの果実、ヤブミョウガの種子等々を観察。飯室山広場ではカマツカの果柄（皮目あり）、コヤブタバコの花殻（粘る）などを見ました。また、シラカシ・ウラジロガシ・アラカシが容易に比較でき、ふだんは気に留めない常緑樹の冬芽もそれぞれ個性があることに気づきました。

広々とした樹形山広場で昼食後、「多摩丘陵とその周辺の雑木林」について先生から植物社会学的な観点から話を伺いました。午後はグリーンアドベンチャーの道をたどり、湿地帯へと降りていきます。

見事に実ったウメモドキの近くで、先生から「ハンノキ林と湿地植生～人の土地利用（薪取りや水田化など）と自然の遷移（乾地化や親樹の生長による陽ざしの遮蔽など）が作用してハンノキ林が推移する」というお話を伺いました。

途中、初めて見たメグスリノキの見事な紅葉を眺めつつ尾根筋に戻りました。伝統工芸館の近くのケンポナシ大木の下で落果を拾い、独特の形を観察、試食して梨の味を確認しました。

黄葉のメタセコイア並木を抜けて、最後は中央広場で締めめの挨拶で解散となりました。

（植物グループ 松井宏明）



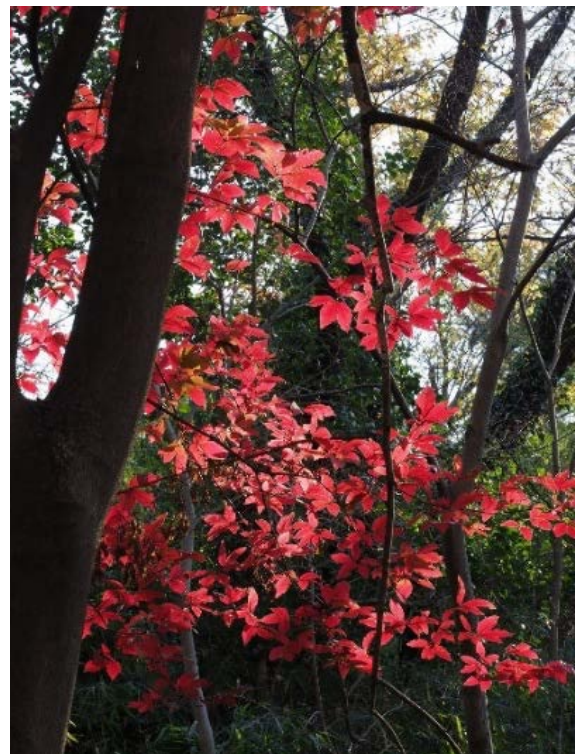
トキリマメ：赤い鞘に漆黒の種子の輝き



カマツカ：紅葉と果実



ノササゲ：薄紫の鞘と瑠璃色の種子



メグスリノキ：見事な紅葉

活動報告（地質観察会）

2021年12月11日（土）／箱根町宮城野／13名／
西澤文勝学芸員、山下浩之学芸員／地学グループ

雲一つない小春日和、宮城野営業所前バス停に、講師西澤先生、山下先生、スタッフ3名、応募者10名が集合し、始めに配布資料で宮城野地域の地質的説明を受けた。箱根は爆発的な噴火を起こした活動期が知られるが、ちょうどこの地域は「強羅潜在カルデラ」と呼ばれ、約23万年前、6,6万年前の大規模噴火に関わった火口が想定されている場所とのこと。まさに今、大噴火の火口の上に立っていると思うと胸が躍る気分であった。箱根が豊富な温泉地であるのも雨の多さが大きく寄与しているらしい。

いざ火打沢へ出発。最初の観察ポイントは神山方面の山全体が一望できる高台。眺めは最高！正面に見える早雲地獄は熱水地帯であり地盤が粘土化し易く、過去に土石流も発生しているそうだ。

次のポイントはローム層の露頭観察。降下軽石の層を挟み上部には固い層（細かい火山灰）が見られた。固い層は粘土状だがこれは細かい火山灰が風化したものだ。また、ローム層には有機物も含まれる。これらローム層の堆積速度は、1万年の期間では1cm～1m／千年の説明を受け、目の前の地層に見られる当時の天変地異がどれほどのものであったか、想像の域を超えている思いがした。

本日の目的地、火打沢へ向かう。途中には鮮やかな紅葉も見られ、秋の名残りを楽しませてもらった。火打沢到着でまず昼食。火打石は黒色で斑晶のないのが特徴ということで、堰堤の上を探し回りやっと親指ほどの大きさを見つけたことができた。参加者の中には手毬ほどの大きいものや、こぶし程のものを見つけた人もいた。みんなで火打金を打ちあわせ火の粉がでるか検証し、遊び心がよみがえる。火打石がどのようなメカニズムでできたかは解明できていないが、安山岩でSiO₂が58%程度と高い特徴があるそうだ。

さらに少し上流側に移動して、堆積物の違いで石質火砕流のあとに本格的な軽石噴火があったと読み取れる地層も観察した。ばらばらな地質情報からこの大地の成り立ち、状況を解き明していく先生方地学者のその推察・想像力には本当に頭が下がる思いだ。今回も楽しく勉強させて頂き、先生・スタッフの方への感謝と共に、次回の観察会がとても待ち遠しい。（水口俊則）



高台より中央火口丘群を望む



ローム層の地層観察



火打金で火花が出れば火打石だ！



火打橋の上で記念写真

学芸員の雑記帳⑥

学芸員 渡辺 恭平

側溝でできる宝探し

道路の脇には多くの場合、たまった雨水などを排水するために側溝(図1)があります。側溝は地上を歩く生き物にとって移動の障壁となったり、這い上がれずに餓死したりと悪影響も知られていますが、時に多くの昆虫が溜まることがあります。側溝には多くの昆虫が見られますが、今回はゴミムシの仲間について紹介しましょう。



図1. 適度に「ごみ」が溜まった「良い」側溝.

ゴミムシの仲間(図2)はオサムシ科から狭義のオサムシ類を除いたもので、オサムシ科の大半を占めるグループです。「ゴミ」と名前にあるせいで、碌な扱いをうけませんが、よく見ると形や色彩も多様で、多くの魅力を秘めた昆虫です。この仲間の多くは地上を歩き、夜行性の種が多いことから、昼間は石や枯草の下などに良く隠れています。和名の由来もおそらく「ごみ」の下に良く隠れていたことによるでしょう。地面を歩いているうちに、多くのゴミムシたちが、側溝に落ちてしまいます。側溝の中にはエサとなる他の生き物も落ちており、適度な湿り気があれば居心地が良いためか、「良い」側溝の中からは様々なゴミムシたちが見つかります。そのような側溝を見つけた時は、楽しい宝探しが約束されたような気持ちになり、思わず笑みがこぼれてしまいます。

「良い」側溝とはどういうものか、皆さんにこっそりお伝えしましょう。まずは底に土や泥が厚く溜まっておらず、草も茂っていないことは重要です。このような側溝ではゴミムシが逃げてしまいます(虫にとっては良いことですが…)し、何よりも探しにくいで

す。きれいな側溝に所々「ごみ」(落ち葉など)が溜まっていて、その下が湿っている場所がベストです。水が流れている側溝もだめです。側溝の中だけでなく、立地も重要です。当然ですが、周囲にゴミムシたちの住み家がないところではあまり採れません。森林や田畑に隣接した側溝は特にたくさんのゴミムシたちが見られます。彼らには種ごとに環境の好みがあり、図2の種類では、セアカヒラタゴミムシが乾いた空き地の周りの側溝に、フタホシスジバネゴミムシは雑木林の林縁にある側溝に、ヨツボシゴミムシは湿地脇の側溝に、オオキベリアオゴミムシは水田脇の側溝に、それぞれ見られました。珍しいゴミムシが採れる楽しい側溝は愛好家の中では有名になり、〇〇市の側溝というだけで意味が通じることさえあります。

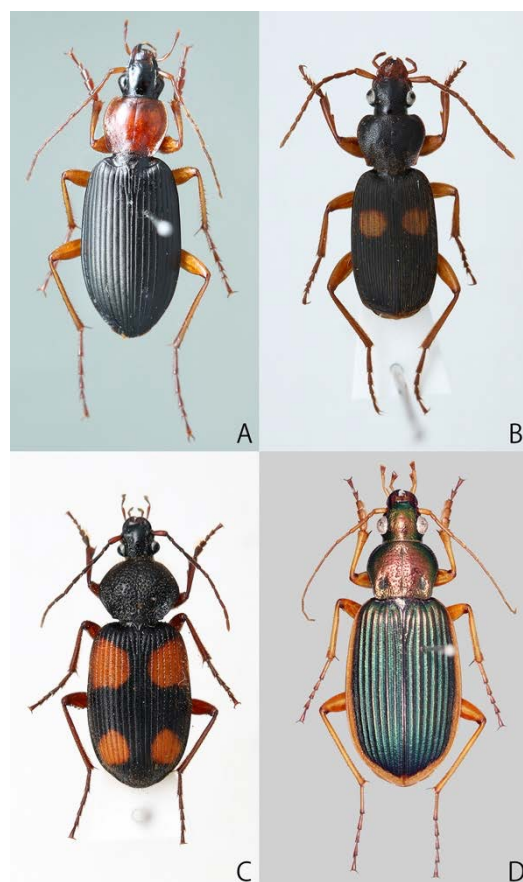


図2. 側溝で見られるごみむしたち. A: 最普通種のセアカヒラタゴミムシ; B: オシャレなフタホシスジバネゴミムシ; C: 採れると嬉しいヨツボシゴミムシ; D: 歩く宝石オオキベリアオゴミムシ.

気になる側溝を見つけたら、棒などでそっと落ち葉を動かしてみましょう。びっくりして右往左往する多くのゴミムシたちに出会えることでしょう。普段だったらあつという間に逃げてしまう素早い彼らも、側溝の中では逃げられないため、じっくり観察する良いチャンスです。ただし、不審者に間違われまいにご注意を。

行事案内

◆ 植物観察会『身近な植物観察入門』

博物館周辺を歩き、身近な植物を観察します。
初心者中心です。会員以外の方も大歓迎です。

日 時：4月23日・5月28日・6月25日

各月の第4土曜日です。必ずしも連続して
出席する必要はありません。

・・・以下は共通です・・・

集 合：博物館正面 前庭 10：00

解 散：同所 12：00頃

参加費：友の会会員・非会員共に無料

当日の保険は植物グループで掛けます

講 師：友の会植物グループ

対 象：オープン・どなたでも

小学3年生以下は保護者同伴をお願いします

持ち物：飲み物・雨具など

申し込み：担当者へ電話をお願いします

(下記の期間内の18：00～22：00)

・4/23 観察会：石橋 090-2159-4752

4/17(日)～4/22(金)

・5/28 観察会：石井 080-6618-1467

5/22(日)～5/27(金)

・6/25 観察会：松井 0466-87-8325

6/19(日)～6/24(金)

問合せ：上記申し込み担当者へ(18：00～22：00)

(博物館には問い合わせないで下さい)

コロナ感染の状況により中止する場合があります。
また、申し込み後、雨天その他の事情で中止の場合
は担当者から電話連絡いたします。

★植物グループ主催の行事への申込方法が
変わりましたのでご注意ください。

I 『植物観察会』

これまで往復はがきで申し込んでいただいていた
ましたが2022年4月からは電子メールでの申し込み
に変わります。

申込期間内に下記アドレスに申し込んでください。

アドレス：shokubutsuG@gmail.com

件名：行事实施日

(例：6月1日植物観察会申込)

メール本文に①氏名、②住所、③年齢、④会員番
号、⑤電話番号、⑥使用しているメールアドレス、
を必ずお書きください。

- ・1通のメールで複数名の申し込みも可能です。
- ・数日のうちに受け付けた旨の返信をいたしますが
1週間たっても返信がない場合は各観察会の連絡
先に電話でお問い合わせください。
- ・お知らせいただいた個人情報については観察会終
了後直ちに破棄いたします。
- ・メールを使わない方は電話でお申し込みくださ
い。(詳細は通信の各行事案内を参照)

II 『身近な植物観察入門』

申込期間内に行事案内の各担当者に電話でお申し
込みください。(詳細は通信の各行事案内参照)

(友の会植物グループ)



観察会風景

◆ 植物観察会『箱根路 初夏の植物を訪ねて』

緑いっぱいの初夏の箱根を訪れます。
コアジサイの花や満開のサンショウバラ、咲き始め
のヒコサンヒメシヤラなど、箱根の植物を観察して
歩きませんか。

実施日：6月1日（水） 雨天中止
場 所：お玉が池から芦之湯（箱根町）
集 合：箱根登山鉄道 箱根湯本駅改札口8：50
（お玉が池までバス）

解 散：芦の湯 14：30頃
（小田原行きバス乗車）

講 師：田中徳久学芸員
対 象：大人10名（応募者多数の場合抽選）
参加費：900円（保険・資料等）

申込み：5月1日～14日の間に、件名を「6月1日
観察会申込み」とし、本文に氏名、住所、
電話、年齢、会員番号、連絡先メール
アドレスを記入して、下記アドレス宛での
メールで申し込んでください。

shokubutsuG@gmail.com

電話申込み：メールアドレスの無い方は5月9日～
13日の19：00～22：00の間に電話で申し
込んでください。

申込み・問い合わせ：近田 090-7902-8501

当日の連絡：近田（同上）

浜岡 090-7823-7427



サンショウバラ

◆ 昆虫観察会「5月 誰に会えるかな春の虫」

5月になると虫たちの活動も活発になります。久
しぶりに春の虫たちに会いに行きませんか。ハムシ
の類が多いとは思いますが思いがけない仲間に出会
うかも知れません。小さな友との再会を楽しみに中
井の里山をご一緒に楽しみましょう。

日 時：5月25日（水）9：40～14：30頃

場 所：中井町比奈窪

集 合：中井町役場入口バス停

解 散：同所

講 師：渡辺恭平学芸員

募集人員：15名（多数抽選）

参加費：500円／人（保険料・資料代を含む）

締め切り：5月10日（火）必着

担 当：里山むしにくクラブ

連絡先：金子 0465-34-9331（18：00以降）

*詳細は返信はがきでお知らせいたします。



ハラグロオテントウ



ヒメハサミツノカメムシ

◆ 生物間共生講座 IX 『菌類が選んだ地衣共生という生き方』

日 時：6月4日（土） 10：30～14：30

状況が許せば講演会後、茶話会を催します。

場 所：博物館1階講義室（東西両側）

講演者：升本 宙氏 京都大学大学院研究員

申し込み：往復はがき又はメールで必要事項を記して友の会事務局へ。メールは題を「6月4日共生講演会申し込み」として下さい

アドレス：c.akahori@gmail.com

締め切り：5月20日（金）必着

参加費：1,100円／人（会員以外1,500円）

対 象：オープン、中学生以上、

連絡先：080-1088-9269（菌事勉強会：赤堀）

地衣類（ちいらい）と聞いて、皆さんはどのような生物を想像されますでしょうか？多くの方はコケ植物のようで“コケ”ではない“何か”という印象を持っているのではないかと思います。結論から述べますと、地衣類というのは植物の仲間ではなく、実はキノコやカビ、コウボなどの形で知られている「菌類」の仲間になります。

菌類の中には、光合成を行う藻類の仲間と共生するように進化したものが意外に多く含まれており、その割合は既知の菌類の約20パーセントにも及びます。こうした菌類は多様な分類群の集まりではありますが、菌糸と藻類の細胞で構成される特殊な構造（地衣体）を作る特徴を共通して持っており、総じて「地衣類」と呼ばれています。

本講演では、地衣類、すなわち「藻類との共生を選んだ菌類」について、共生相手となる藻類も含め、その分類や形態の多様性、そして地衣共生という不思議な生き方についてご紹介したいと思います。



図1：看板の木枠の側面に生えた多数の地衣類。

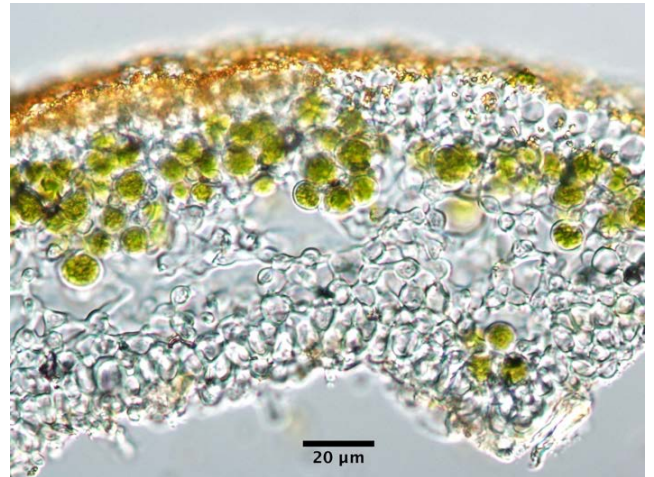


図2：葉状の地衣類、ロウソクゴケの断面写真。

緑色の丸いものが共生相手の藻類の細胞になります。

◆ 地学観察会

観察会：石材を使った建築物巡り（仮題）

日 時：6月11日（土）

場 所：神奈川県立歴史博物館周辺

対 象：友の会会員

備 考：詳細はチラシ、ブログにて



2021年12月地学観察会情景

◆ 地話懇話会

演 題：西富岡・向畑遺跡における地形・地質学的調査

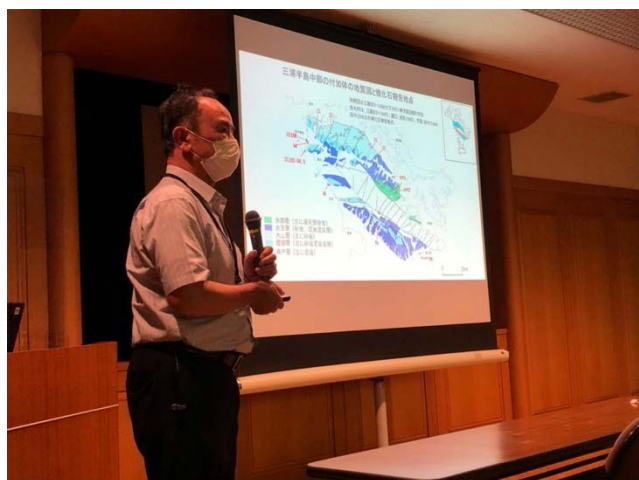
日 時：6月22日(水)

場 所：博物館東西講義室

対 象：友の会会員

話題提供者：西澤文勝学芸員

備 考：詳細はチラシ、ブログにて



2021年6月地話懇話会情景

友の会主催行事の参加申し込みについて

◆行事案内に申込み方法が指定されていない場合
往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。

■必要事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢(学年)／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項

◆行事案内に申込み方法が指定されている場合は指定された方法(メール・電話等)にてお申し込みください

注意！

■参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

■オープンの行事は会員以外の方も参加できます(参加費が会員とは異なる場合があります)。

■小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

■チラシの発行されない行事もありますので、直接<連絡先>へお問い合わせください。

■持ち物など詳細は返信はがきに記載されます

—広報部より—

2018年度から通信の編集作業は外注から広報担当者が行っています。編集作業や新規企画提案など通信作成のお手伝いをいただけると非常に助かります。お手伝いいただける方は、下記メールアドレスにご連絡ください。よろしくお願いします！

次号は、2022年6月15日発行予定です

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.25、No.4、通巻115号 2022.3.15 発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田4-9-9
TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp
Blog：<http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>
Twitter：@kpmtomo